

2021年度
市町村保育担当職員等研修

親に寄り添う支援

－保護者支援・対応の考え方－

倉石哲也
武庫川女子大学

主な柱

- ❖ 保育所保育指針
- ❖ 親になることの困難
- ❖ 「しつけ」の難しさを訴える保護者
- ❖ コロナ禍の子育て不安の受け止め
- ❖ 「相談」について考えましょう
- ❖ 愛着スタイルの理解
- ❖ 関係の回復を目指す支援

「保育所保育指針」における子育て支援 (第4章) から抜粋

保育所保育指針より

1. 保育所における子育て支援に関する基本事項

(1) 保育所の特性を生かした子育て支援

ア；保護者に対する子育て支援を行う際には、**各地域や家庭の実態等を踏まえる**とともに、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重すること。

イ；保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるように努めること。

保育所保育指針より

2. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

(1) 保護者との相互理解

ア；日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所**保育の意図の説明**などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること。

イ；**保育の活動に対する保護者の積極的な参加**は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すこと。

保育所保育指針より

2. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

(2)保護者の状況に配慮した個別の支援

ア；保護者の就労と子育ての両立等を支援するため、保護者の多様化した保育の需要に応じ、病児保育事業など多様な事業を実施する場合には、保護者の状況に配慮するとともに、子どもの福祉が尊重されるよう努め、子どもの生活の連続性を考慮すること。

イ；子どもに障害や発達上の課題が見られる場合には、市町村や関係機関と連携及び協力を図りつつ、保護者に対する個別の支援を行うよう努めること。

ウ；外国籍家庭など、特別な配慮を必要とする家庭の場合には、状況等に応じて個別の支援を行うよう努めること。

令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

保育所等における外国籍等の
子ども・保護者への対応に関する
調査研究事業
報告書

令和2(2020)年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

厚生労働省 令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

保育所等における
外国籍等の子どもの保育に関する
取組事例集



令和2(2020)年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

3 外国籍等の子ども・保護者をとりまく課題と配慮のポイント

- 以下では、外国籍等の子どもが直面しうる課題とそれに対する配慮のポイントについて、言語面と文化面から整理を行います。
- 配慮のポイントについては、第3章の関連する取組事例のページを記載していますので、あわせて参考にしてください。

(1) 言語面に関する課題と配慮のポイント

子ども

<課題>

- 来日したばかりの子どもの場合、日本語がほとんど理解できず、保育所等での生活に大きな不安を抱えてしまうこともあります。
- 一方、ある程度日本での生活経験があり、日常会話は問題ないようにみえても、学習するための言語能力の発達が十分でない場合、小学校入学後に学習到達に困難が生じる可能性があります。

<配慮のポイント>

- ✓ 来日したばかりの子どもや、日本語の理解が難しい子どもには、まずは母語で話しかけることで安心感を与えるとよいでしょう。【参考:P.27(1)母語に配慮した保育所内での表示や声かけ】
- ✓ 日本語の理解力にあわせて、イラストや写真等を用いてコミュニケーションを取ることも有効です。【参考:P.28(3)わかりやすい日本語やイラスト等の使用】
- ✓ 徐々に日本語に慣れてきたら、日常言語だけでなく、学習言語の育成も意識して支援を行うとよいでしょう。【参考:P.37(2)就学に向けた個別的な指導や支援】

保護者

<課題>

- 日本語での説明が十分に伝わっておらず、必要な情報が届いていないこともあります。理解できていなくても「わかった」と言ってしまう方もいます。
- また、言葉の壁により保育所との信頼関係が築けないことで、大きなトラブルに発展してしまうこともあります。
- さらに、文化や習慣の違いから、日本人の間では当たり前とされるような子どもへの関わりが保護者に受け入れられないこともあります。

<配慮のポイント>

- ✓ 日々のやりとりは、わかりやすい日本語や母語を交えたイラスト、翻訳機器等を活用したり、実物を見せて説明することが大切です。【参考:P.33(1)文書の多言語化、わかりやすい日本語やイラスト、翻訳機の使用】
- ✓ 文書だけでは伝わりづらい可能性があるため、口頭でも確認するとよいでしょう。【参考:同上】
- ✓ 面談や行事など日本語による細かい説明を必要とする場合には、通訳など母語と日本語両方がわかる人を介したやりとりが確実です。【参考:P.23(1)保育所への通訳等の派遣・配置】
- ✓ 送迎時等の積極的な声かけにより、話しやすい雰囲気作りをしてみましょう。【参考:P.34(3)子育て、日常生活の支援】

第3章 外国籍等の子ども・保護者の受入れから卒園まで

1 外国籍等の子ども・保護者を受入れる際の流れの全体像

- 本章では、①入園申し込みまで、②入園時、③在園中、④卒園時の4段階にわけて、外国籍等の子ども・保護者を保育所等で受け入れる際の取組事例を紹介していきます。
- 外国籍等の子ども・保護者に関わる人々は以下に示すとおり多岐にわたるため、取組にあたっては、保育部局や保育所等だけではなく、市区町村の他部局や地域との連携が有効な場合もあります。まずは周囲にどのような関係者がいるか確認してみるとよいでしょう。

図表10 外国籍等の子ども・保護者に関わる人々



	取組事例	ページ数
①入園申し込みまで	● 保育所等の制度や手続きに関する多言語での周知	P.15
	● 入園前の問い合わせ等への多言語対応	P.15
	● 産後から保育所等入園までの継続的支援	P.16
②入園時	● 入園のしおりの多言語化	P.19
	● 入園説明会での多言語対応	P.19
	● 入園面接での対応	P.20

保護者を支援することの意味と意義

- ・ 現代子育て事情
- ・ 「親になる」ということの難しさ

「親になる」ということ

- 人間の赤ちゃんは「生理的早産」と考えられています
・・・では（いきなりですが）**質問です。**

質問；人間の赤ちゃんは何カ月お母さんのお腹にいればいいと思いますか？

答え；「 」カ月

赤ちゃんは、お乳を飲む、眠る、排せつする以外は

‘泣くこと’ しかできません



「親になる」ということ

次の質問です

Q 1 ; 人間の出産周期は？ 「 」 年でしょうか？

Q 2 ; では、人間に近いチンパンジーは出産周期は？
「 」 年でしょうか？

(京都大学霊長類研究所)



「親になる」ということ

- ❖ 人間（女性）の体は、1年周期で赤ちゃんを産むような身体に作られています
- ❖ 人間の赤ちゃんは「生理的早産」といわれています
そのため赤ちゃん一人ではほとんど何もできませんね
- ❖ つまり、女性（母親）が一人で子育てをすることは、
「生物学的には不可能」 = 仲間が必要です
- ❖ 「親の子育て = <配偶者や仲間> **共同による養育**」

「親になる」ということ

◆いつから「子育ては母親の責任」といわれるようになったのか？

❖1960年代 「専業主婦」の出現・・・子育ては母親の役割

❖1970～1980年代 「不登校」「家庭内暴力」の出現・・・母親の責任

「母原病」、「父原病」、「家原病」

－子育ては母親の責任！の風潮が高まる

❖1985年 男女雇用機会均等法・・・仕事と子育ての両立の時代へ

❖2000年以降 児童虐待問題の出現・・・虐待をする親を罰する風潮

➡母親への子育て責任（自己責任）論が高まりました

共同養育者が不在のまま

子育てを☑され  されていると感じる母親が出現

‘「親になる」ということ’の難しさ 1

1. 「育てられる者」から「育てる者」へ

(鯨岡峻2002)

育てられる者－自分中心、選択、自己への投資

育てる者－子ども中心、非選択、子どもへの投資

現代における役割転換は「コペルニクス的」

－役割（自分らしさ）と関係（つながり）の喪失

➡「親準備性」の仕組みが社会から欠落

‘「親になる」ということ’の難しさ 2

2. 自分はどうやって「育てられたのか？」

- 社会的文脈から考える必要性
- 今の親世代はどのように育てられた世代なのか？
 - ・ 男女雇用機会均等法（1985年）前後に出生した世代が多数
 - ・ 自分らしく、自由に、自立し、束縛されず...という価値
- 男女雇用機会均等法以前
 - ・ 親の親（祖母）の世代との価値転換
- 最後の専業主婦世代 （三浦展「家族と幸福の戦後史」1999）
- クリスマスケーキ、寿退社→‘結婚・出産’に価値
 - ・ 自由に生きる＝自主性、自己責任制
- 今の親の子育ての“しんどさ” （本田由紀「家庭教育の隘路」2008）

‘「親になる」ということ’の難しさ 3

3. 子育てのイメージを作る難しさ

妊娠期と出産後数ヶ月；養育イメージが最大変化する可能性

妊娠期支援、産後ケアの重要性が増している

「産後うつは必要説」＝共同養育の仕組みづくり

自分を再組織化させる（展望を持つ）

－仕事と子育ての両立は？

子の預け先は？

誰を頼ればいいのか？

支えられ、頼る相手がいることで養育イメージができる

‘「親になる」ということ’の難しさ 4

❖多忙化

時間と成果に追われる時代⇔子育ては仕事と同じ？

“きちんとちゃんと”の警報  が頭の中で鳴ってます’

❖自己責任化

仕事と子育ての両立➡‘自分で選択したから自己責任です’

自分で責任を被る➡‘頼ることは恥ずかしい’“申し訳ない’

❖自責の念

多忙化の中で落ち着いた思考、自己決定ができないと…

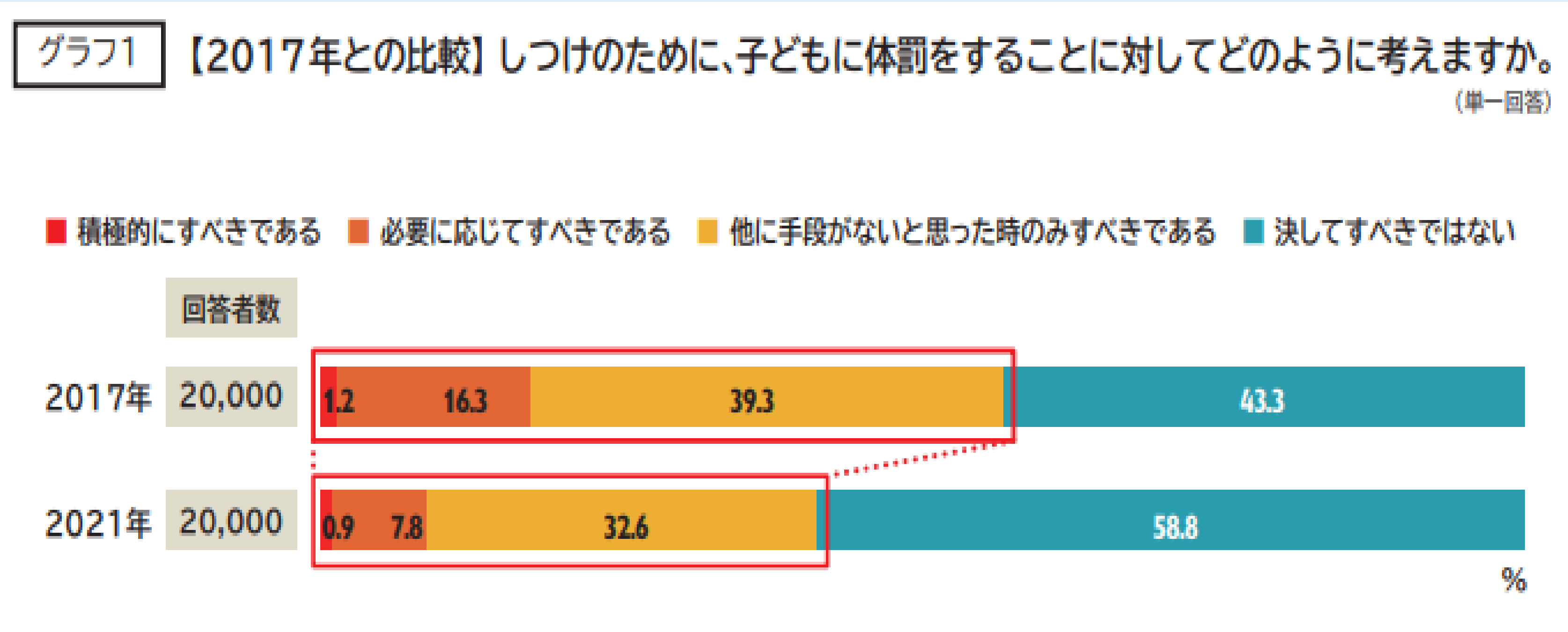
子どもの泣き声が私を責めているように感じるようになる

子どもの自立、しつけに戸惑う親

“しつけ”と“体罰”の社会文化的文脈が変わる

- 日本社会の文化的文脈＝**体罰容認（肯定）論**
- 近年の文化的文脈＝**限定的容認論**
- 必要最低限の範囲で、子どもの人道・人格教育上必要であるという考え方（が一般的？）
- 親（大人）の「被養育体験」による「内在化」
- 親からの「愛情のムチ」への親和性
- 世代間で連なる価値を、社会文化的文脈を転換させることで変える必要性...スウェーデンでは25年かかりました
- 近年中の「懲戒権」の変化を見通す論議に

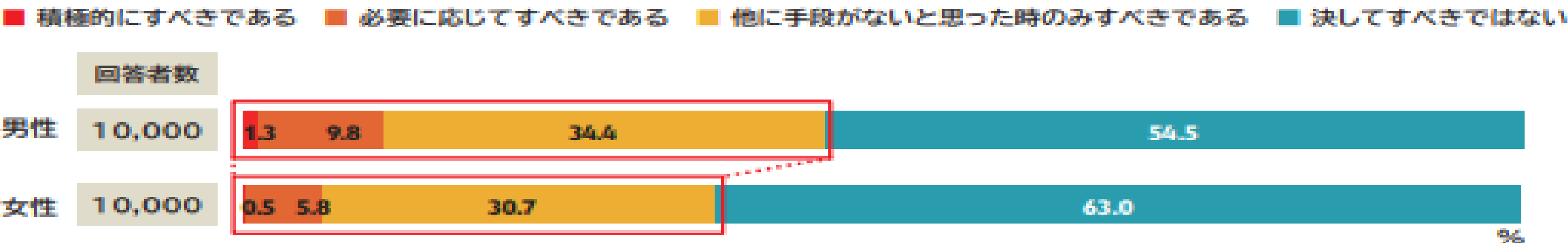
体罰に関する意識調査；どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会



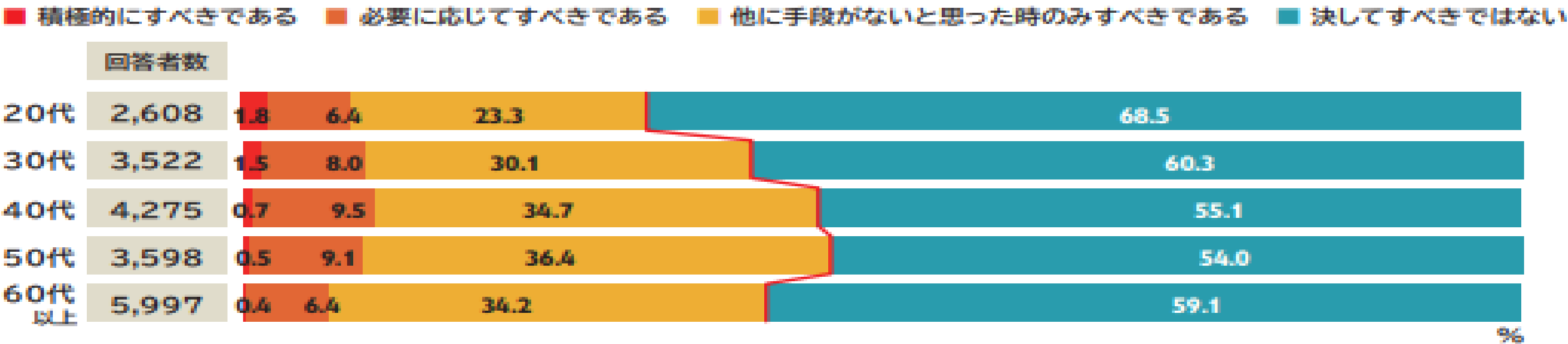
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン - 子ども支援専門の国際NGO団体
(savechildren.or.jp)

体罰に関する意識調査；どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会

グラフ2 性別と体罰容認度との関係性



グラフ3 年代と体罰容認度との関係性

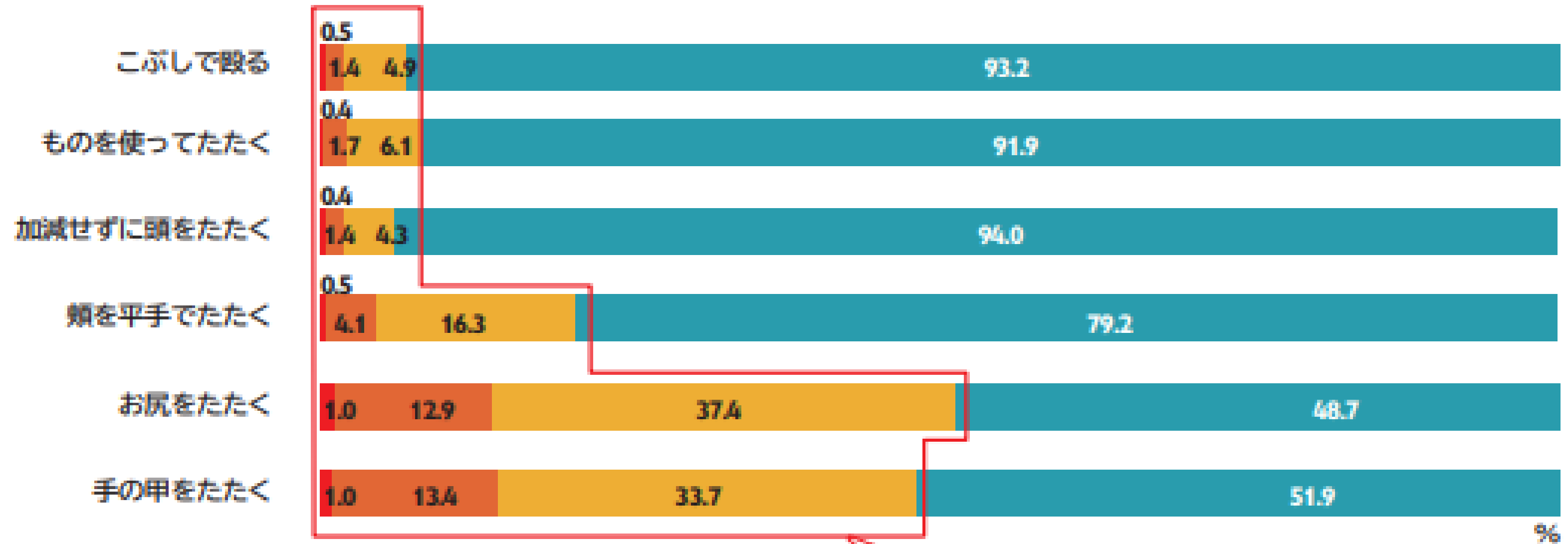


[セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン - 子ども支援専門の国際NGO団体](http://savechildren.or.jp)
(savechildren.or.jp)

体罰に関する意識調査；どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会

グラフ5 しつけのために、子どもを次のように「たたく」行為について、どのように考えますか。
(それぞれ単一回答)

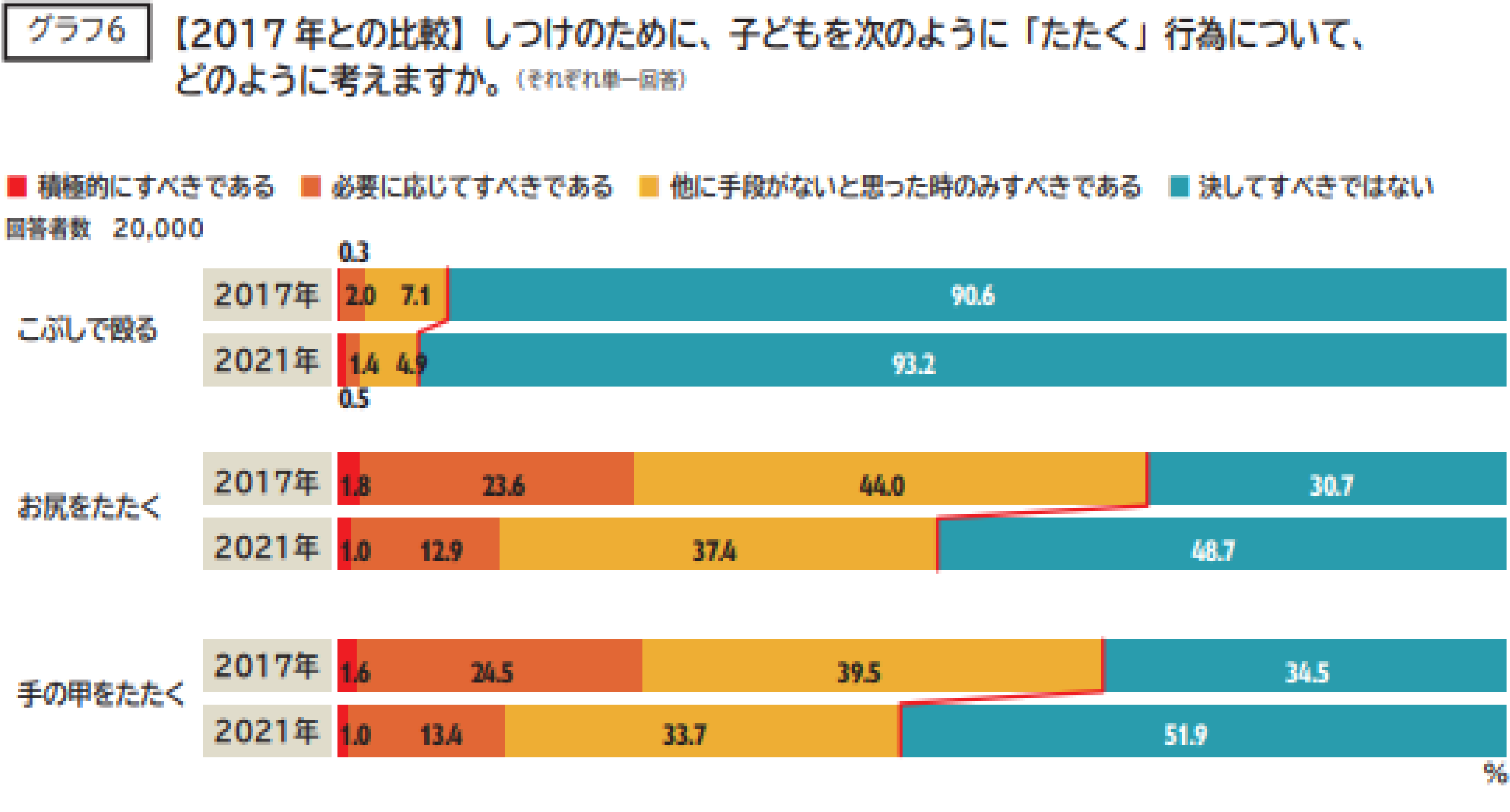
■ 積極的にすべきである ■ 必要に応じてすべきである ■ 他に手段がないと思った時のみすべきである ■ 決してすべきではない
回答者数 20,000



「たたく」行為の内容によって、容認する回答者の割合が異なり、未だ半数近くが「お尻をたたく」「手の甲をたたく」という行為を容認している。

Point

体罰に関する意識調査；どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会



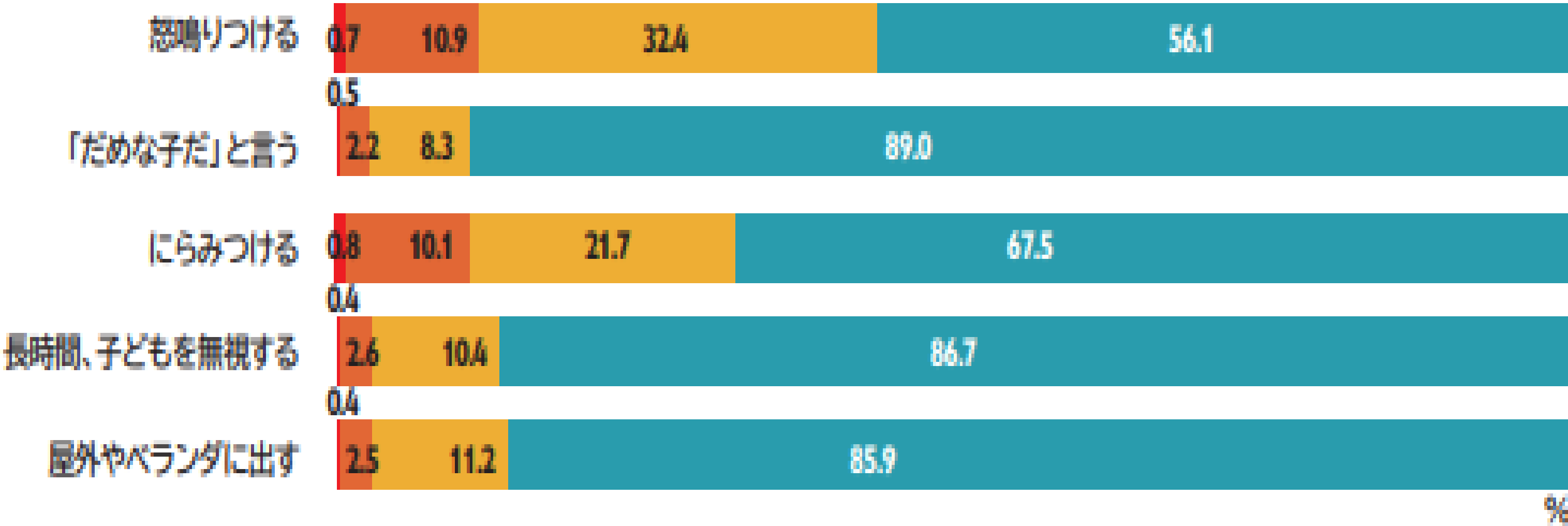
[セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン - 子ども支援専門の国際NGO団体](http://savechildren.or.jp)
 [\(savechildren.or.jp\)](http://savechildren.or.jp)

体罰に関する意識調査；どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会

グラフ10 しつけのために、子どもに対して次のような行為をすることについて、
どのように考えますか。(それぞれ単一回答)

■ 積極的にすべきである ■ 必要に応じてすべきである ■ 他に手段がないと思った時のみすべきである ■ 決してすべきではない

回答者数 20,000



保育者が保護者に伝える ; 'しつけ' と '体罰' の違い

◎ しつけとは何か？ ;

「自立」を促す

- ①子どもが安心・安全だと思うようにする
- ②子どもを肯定する
- ③自分への自信を育てる
- ④自分で選べるように援助する
- ⑤子どもの'できない'を保障する
- ⑥親が落ち着くことが大前提

◎ 体罰とは何か

- ①大人の感情の捌け口である
- ②恐怖心を与えることで子どもをコントロールする
- ③即効性があるので他のしつけの方法がわからなくなる
- ④しばしばエスカレートする
- ⑤見ている他の子どもにも深い心理的ダメージを与える
- ⑥取り返しのつかない事故を引き起こす

**コロナ禍の子育て不安
保護者に少しでも落ち着いていただくために**

コロナ禍における子どもと親の支援 1

－ 親と一緒に考える 9 か条

① 子どもは親・大人の気分に影響を受けます

- ・ 如何に安心感を与えることができるか、がポイントになる
- ・ 会えない、話せない親のストレスを支える

② 子どもの不安に耳を傾けることも時には大切です

- ・ 子どもの発する「言葉」をしっかりと受け止める（返す）
- ・ そのために、大人の心のゆとり具合を知りましょう
- ・ 聴けないときは態度ではなく言葉でつたえることを心掛けます

③ 一緒にすることで会話が弾みます

- ・ 日課を規則正しく、生活リズムは大切にしましょう
- ・ 散歩、家の周りには子どもにとって宝物が沢山あります
- ・ 子どもが楽しんでいることを発見する
- ・ 手遊び、スキンシップで不安の回復を図ります

コロナ禍における子どもと親の支援 2

④子どもが大人をイライラさせるのは当たり前

- ・子どもは感情のコントロールはできにくいです
- ・感情のコントロールを求めるのは「酷」です
- ・因果関係、記憶、見通しは発達していません
- ・‘何とかしてくれ’とSOSを発信するのは当たり前です
- ・大人は自分のイライラを点数化してみましょう

何点？ その理由は？ 点数を下げる方法を考えましょう

⑤子どもが暴力的になるときの対応

- ・押さえている思いや気持ちがあるはずです
- ・大人が気持ちを読み取り、「言葉に置き換えましょう」

コロナ禍における子どもと親の支援 3

⑥気持ちを立て直してもらえるという感覚を身に付ける

- ・ 不安にならないようにすることも大事ですが、不安になったときに安心できるような対応のほうが、子どもの人間性は育ちます
- ・ 愛着関係の形成につながります

⑦遊ぶことを意識します

- ・ 並んで絵本を読む
- ・ 並んでTVを観る
- ・ 並んでご飯を食べる
- ・ 子どもが遊んでいれば、そっと横で遊ぶ。体が触れる程度に。視線の向きを一緒にします。

コロナ禍における子どもと親の支援 4

⑧TVやメディアを観すぎること（2時間以上の視聴が増加）

- ・制限よりも上手に手伝うチャンスと考えます
- ・子どもと大人が楽しめるサイトや番組を探しましょう
- ・大人も関心が持てるようなサイトを紹介してみましょう
- ・終わるときは予告します。一緒に楽しんで終わります。

⑨ASDのお子様

- ・外出、療育等に無理に通うのはやめましょう
- ・家でゆっくり過ごすと、親の動きがよく見えて、学習が進みます

子育て支援、対応場面
「相談」について考えましょう

相談されるときの対応； 相談とは；相槌

【「相談」とは？】

- 問題の解決のために話し合い。他人の意見を聞いたりすること。
- 「相」；二人で互いに槌(つち)を打ち合わすこと。相槌
- お互いに息を合わせて、という意味
- 「相」を使う漢字は？
- 「談」；まとまったことを話すこと
- ※ということは、答えは必要なの？



‘(イヤイヤ期で)言うことを聞かせるのにどうしたらいいですか’

相談されるときへの対応；答える前に その1

－プラスに受け止める

❖相談や訴えは

‘当然のこと’

‘望ましいこと’

‘尊重されること’の3原則を守りましょう



‘褒める方法を教えてください’

‘お友達が怖いから保育園に行くの嫌がります。どうしたらいいでしょう？’



よく相談してくださいましたね！

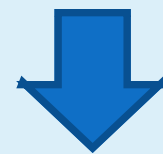
相談されるときの対応；答える前に その2

－苦心や努力を聴きましょう

- ①答えるだけが相談対応ではありません
- ②保護者の取り組み（試み）を十分に聞きとめましょう
 - ・状況を丁寧に聞き取りましょう
 - ・最近の状況、最も困った状況などを丁寧に
 - ・これまでの苦心や努力を聞き取りましょう



‘泣きだしたらとまらないんです’
‘抱っこしても泣き止んでくれなくて…’



お母さん(お父さん)はどのようにされているのですか？

相談されるときの対応；答える前に その3

－苦心や努力の結果を尊重しましょう

③取り組み（試み）の結果を聞きましょう

- ・（決して）望ましい結果ではないけれど、状況を確認しましょう
- ・子どもへの対応を丁寧に聞き取りましょう
- ・保護者の思いをしっかりと傾聴し受け止めます

④取り組み（試み）を十分に労いましょう

- ・結果よりも経過（取り組み）を十分に受け止め
- ・保護者の苦心を認めます



‘泣き止むまで放ってます’、‘私も疲れるだけなので’

相談されるときへの対応；答える前に その4

－何ができそうか、できそうなことを確認しましょう

- ⑤保護者がやろうと思う（できそうな）ことを確認します
- ⑥できそうなことの相談をします→‘どうやっていきましょう’
- ⑦どうするかは保護者が決めます→時には提案を



○△のやり方もあるけれど
お母さんはどう思う？

親を支援するポイント

長所を発見！

ウィークネス（できない探し）からストレングス（できる探し）

ストレングス
〈強み・長所に目が向く〉

親と保育者がパートナーとなる

親の要望やニーズに焦点を当てる

助言は親の能力にプラス・アルファする

家族が設定した目標を達成できるようにする



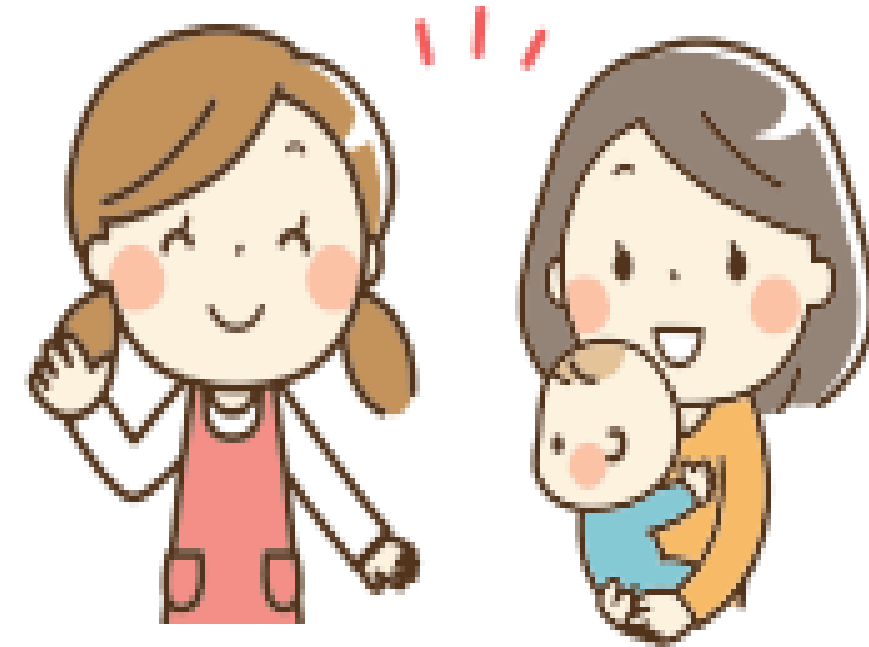
ウィークネス
〈弱さ・短所に目が向く〉

保育者は子育て（保育）の専門家である

親の「よくないこと」に焦点を当てる

問題の原因を理解し確認する

「何が問題」で、「どう直すか」を教える



愛着スタイルを理解しましょう

愛着の（アタッチメント）理解

＜愛着とは＞ ジョン・ボウルビー

1. 広義（広く一般に考える）

「子どもと養育者の間で交わされる情緒的交流」

2. 狭義（狭く＝専門的に考える）

「子どもが不安を感じたり、危機的だと感じる状況で、特定の養育者との間で情緒的な安定を取り戻そうとする行為」

養育者の愛着スタイルの分類 1

①安定型

<子どもとの愛着関係>

- 親の子どもへの感受性や応答性は日常的に高い
- 子どもの不安や怒りの読み取りができ、子どもとの間で落ち着いたやりとりがある
- 養育行動にある程度の一貫性がある

<保育者・大人との人間関係>

- 愛着の重要性を高く認識している
- 保育者や仲間等にも被養育体験をプラスとマイナスで思い出し、語るることができる
- 周囲の人間に信頼関係を築くことに困難を感じない

養育者の愛着スタイルの分類 2

②愛着軽視型

<子どもとの愛着関係>

- 子どもや保育者に対して全般的に拒絶的
 - － 挨拶や返事だけ、言葉が少ない（短い）
- 子のマイナス感情や身体接触を好まない
 - － 子どもが困っていても手を貸そうとしない
- 子どもの育ちに関心が高くない
 - － 連絡帳や園だよりを見ようとしていない

<保育者・大人との人間関係>

- ☐ 子どもの話をしようとしていない
- ☐ コミュニケーションの妨げにくさを感じる
 - － 打ち解けにくい、冷たさを感じる
- ☐ 周囲の人間に信頼関係を築くことをしない

養育者の愛着スタイルの分類 3

③不安定・囚われ型

<子どもとの愛着関係>

- 親の子どもへの関わりが自己都合が優先されることが多い
 - ー 子どもの遊びや波長に合わすことができない 自分に合わせようとする
- 養育に不安が強く、子どもとの間で落ち着かないやり取りが多い
 - ー 子どもが不安定な時にオロオロする
- 子育ての情報が過多で、不安定さが見られる

<保育者・大人との人間関係>

- 質問や助言を求めることが多いが、保育者は伝わりにくさを感じる
- 他者への不平・不満や怒りを強く出す表現もある
- 周囲の人間と安定した人間関係が作りづらい

養育者の愛着スタイルの分類 4

④未解決型

<子どもとの愛着関係>

- 親は子の行動に過敏であったり、抑うつ的であったりと波が大きい
- 不眠、不安など精神的不安定さを抱えている
- 家庭内で困難体験を抱えている

<保育者・大人との人間関係>

- 喜怒哀楽が激しいーニコニコと怒りや悲嘆の差が激しい
- 信頼できるコミュニケーションが難しい
- 周囲の人間との関係は限定的で孤立的
 - ー 頼れそうな人にべったりと依存する場合がある

愛着が形成できない；逆境的心理 1

- 親自身に虐待経験などがなくても、たとえば結婚早期に胎児をなくしたり、災害を身近に体験したり、幼いわが子と別れざるをえなかったり、いじめ（ハラスメント）を受ける、夫から深刻なDVを受ける、幼少時に親の離婚を体験している、親からの支配（人格を否定する言葉）など、心的外傷をこうむり、かつ、それがなんらのサポートされることなく、また語られることなく心の奥底に埋められ、未解決なままであった場合には、「虐待」ではなく、「おびえたような/おびえさせるような」行動として、養育場面で、子どもを不安定な状況に陥らせてしまいかねないほど深刻な事態を招いてしまう。

愛着が形成できない；逆境的心理 2

- 親自身が自分の親から受けた自己信頼感、自己受容感、自己肯定感が育児の際の赤ちゃんに向けるまなざし・態度・行動に影響しているのです。育児が孤独であったり、苦痛がつのったりしてくると、母親は、自分自身の様々な感情を他に向き替えられなくなり、育児行動の中に反映させざるを得なくなります。
- 孤独な育児行動が、母親の否定的な側面を引き出し、赤ちゃんの泣き声や要求に怯え、自分の心の中にある未消化な感情に圧倒されてしまいます。母親にまるで「お化けの世界」がとりつくのです。
- 保育所で信頼できる保育士と出会うことで、‘親に甘えられなかった体験’を“思い出し’、‘（甘えの）やり直し’ができるようになり、保育士に支えられることを通して‘子どもと向き合い’、‘子育てに自信’がもてるようになる。
- 藤岡孝志『愛着臨床と子ども虐待』2008

関係の回復を目指す支援 (親対応)

愛着の回復を目指す親支援(1)；タイプを認める

①親のタイプは変わらない(変えようとしなない)

親の愛着スタイルは簡単には変わるものではありません。
「私たちはしっかりお子さんを保育するから、お母さんは無理しなくていいのよ」「頼ってくださいね」と、親の愛着スタイルを否定せず、一旦認めていきましょう。



- ❖ 経験していないことは、直ぐにできませんね...
- ❖ 自分の被養育体験と関連がある場合も...
- ❖ あまり抱っこされた経験がない親は...

愛着の回復を目指す親支援(1)；子どもは変わる

②子どもの愛着行動を変える

保育を通して保育士がていねいに関わることで、親の不安定な影響を受けている子どもの愛着行動が安定型に変容する可能性はあります。保育者は子どもが不安を示せば感受性と応答性を持って対応します。



- ❖ 感受性；子どもの気持ち、やってほしいことの読み取り
- ❖ 応答性；感受性に合わせた対応をしようとする
- ❖ 最初は落ち着かなかった子、独りぼっちだった子でも、保育を通じて保育者との楽しい関係が育っていきますね

愛着の回復を目指す親支援(2)；保育の理解を促す

③保育者の愛着行動の理解を得る

「先生のように抱っこできない」「うまく泣き止ませられない」と親が言ったときに、「保育所と家では子どもの様子が違っていいのですよ」「お母さんなりのやり方でいいのよ」と母親に共感し、支える姿勢を示します。

同時に保育では子どもの甘えやスキンシップを保育者として積極的に受け容れることを了解してもらいましょう。



- ❖ 保育者は子どもの「できない」を許し受け止める存在です
- ❖ 子どもの頼る力を育てるのも保育者の役割ですね

愛着の回復を目的とした親支援(2)；タイプ別

④親のタイプ別対応

*軽視型の対応:お母さんの気になっていることや考えていることを話してもらいましょう。

*不安定型の対応:子育ての方法ではなく、「お母さんにこうしてほしいんじゃないかなあ」と子どもの気持ちを丁寧に代弁しましょう。

*未解決型:親が安心する対応を心がけましょう。園を親の安全基地にするという考え方が大切です。



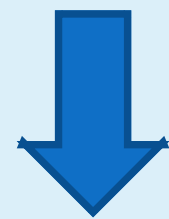
お母さん、朝から
大変だったの
ですか

保護者にとって、園が‘ほっとできる場所’に
保育者が‘ほっとできる存在’に

愛着の回復を目指した親支援(3)

⑤園を安心・安全の基地に

- *全職員の対応と見守り:「〇〇さん、おはようございます」など担任以外からの声かけを心がけましょう
- *波長合わせ:親の興味関心に話を合わせましょう
- *自尊感情が高まる仕掛け:保育者が親に感謝する機会を積極的につくりましょう



保育者は共同養育者!

‘おかあさん、ありがとう！’の関係づくり

子育ての応援団を作しましょう！

【子育て支援とは】

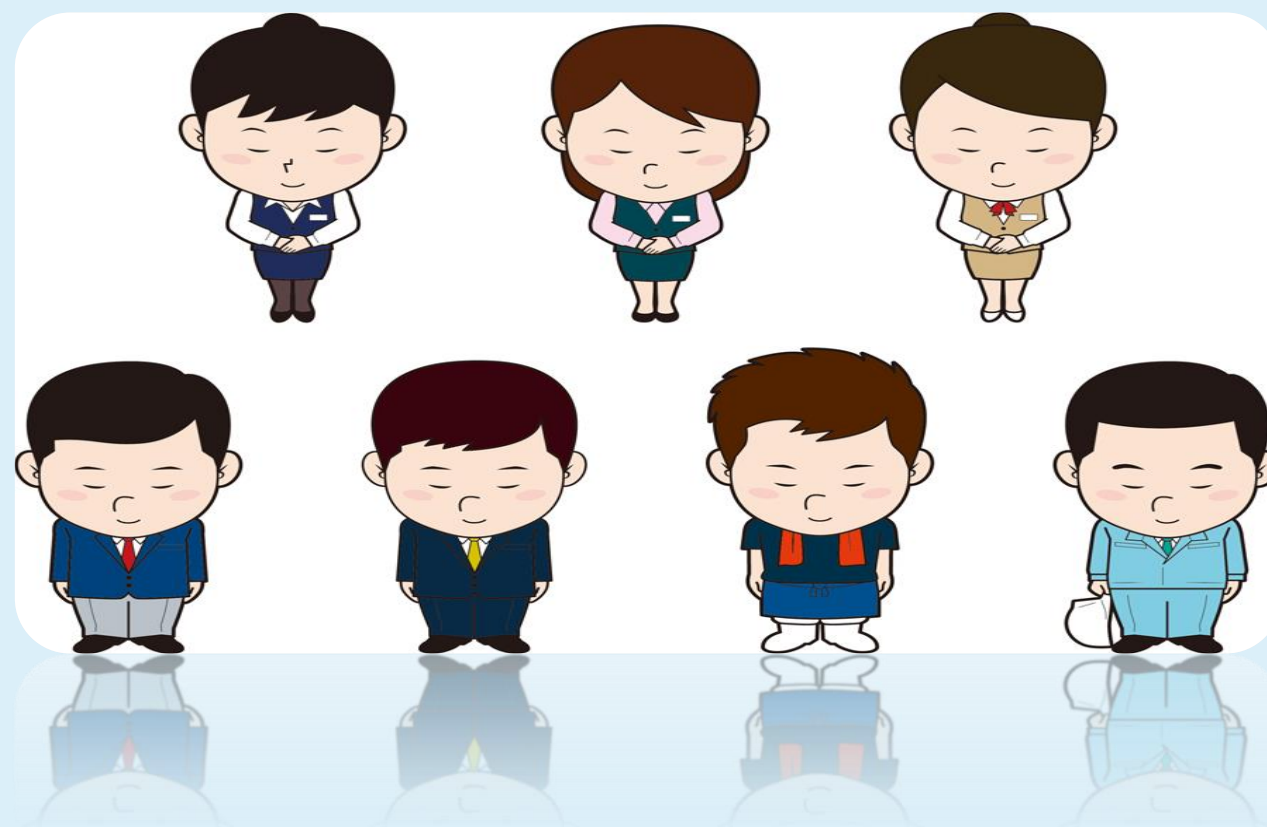
親が本来できるはずの子育ての力が発揮できない状況について保育者が理解し、親自らが思うような子育てができるようにするための活動を指します。

【子育て支援の目標】

- ①親からの相談を理解できるように保育者がしっかりと受け止めていくこと
- ②子育て支援に関する連携を親同士、地域の住民、地域にある機関や施設とつながりを持ちながら進めること



ご清聴いただきありがとうございました



配慮を要する親子への支援/保護者支援テキスト1



親と子が育つ子育て支援 保育者の専門性と支援スキル（ちゃいるどネット大阪）